

かぼちゃ

担 当 者 藤井 健
副 担 当 者 泉谷 雅俊

試 験 課 題 名	品種系統比較選定試験
目 的	本町に適した多収・高品質の品種を選定するため比較検討し普及に資する
期待される成果	優良品種の導入により、生産の安定と経済性の向上を図る
連 携 機 関	土別地区農業改良普及センター JA 北ひびき和寒基幹支所 和寒町蔬菜組合連合会南瓜部会

1 供試品種・資材

品種

※えびす (タキイ種苗) こふき (ナント種苗) メルヘン (サカタ種苗)
虹口マン (新生商事) くりゆたか (協和種苗) バカ旨 (大学農園)
北里 (雪印種苗) 試交-K26 (みかど交配) T-52 (タキイ種苗)
※基準品種

マルチ資材

生分解性マルチフィルム (サンブラック工業株式会社)

・サンブラックNL95 ・サンバイオSB95 ・サンバイオSN95

2 耕種概要

土 質 ~ 埴壤土

前 作 ~ キャベツ

播 種 日 ~ 5月18日 定植日 ~ 6月1日 収穫日 ~ 9月7日

整枝方法 ~ 小蔓2本仕立て

栽植密度 ~ 畦幅3m×株間0.75m 444株/10a 当り

3 土壌診断結果と施肥量

(1) 土壌診断結果

(mg/100g)

pH	EC	P205	K20	MgO	CaO
6.0	0.064	37.9	69.0	83.0	543

(2) 土改資材と堆肥 (kg/10a)

炭カル ~ 30kg 堆肥 ~ 2,000kg

(3) 施肥内容 (kg/10a)

基肥 ~ S 8 5 1 (8.0 - 15.0 - 11.0) 6月1日 全層施肥

分肥 ~ BBNK20 (20.0 - 0.0 - 10.0) 7月5日 側条施肥

(4) 肥料の要素量

(kg/10a)

		N	P	K
基肥	S 8 5 1 50kg	4.0	7.5	5.5
分肥	BBNK20 20kg	4.0	—	2.0
合 計		8.0	7.5	7.5

4 調査項目

生育調査 ~ 播種日・発芽期・発芽率・定植日・定植時の苗質・初期生育

雌花開花期・着果節位・着果期・収穫日・成熟日数・草勢・うどんこ病

収量調査 ~ 10a 当たり収量・収量比・1株当たり平均個数・平均一果重・規格別割合

果実特性調査 ~ 果型・果皮色・肉厚・果肉色・Brix

食味調査 ~ 硬さ・粉質程度・甘味・食味

貯蔵調査 ~ Brix・腐敗率

5 生育調査

項目		品種	えびす	こふき	メルヘン	虹ロマン	くりゆたか	パカ旨	北里	試交-K26	T-52
播種日			5月18日								
発芽期			5月25日	5月26日	5月25日	5月25日	5月25日	5月25日	5月25日	5月25日	5月26日
発芽率(%)			99	99	99	100	99	100	100	99	99
定植日			6月1日								
定植時の苗質	最大葉長(cm)		6.5	7.2	7.6	8.9	8.4	7.4	8.4	8.4	9.0
	葉数(枚)		1.5	1.8	1.8	1.8	1.4	1.4	1.3	1.6	1.5
初期生育 定植から20日後	つる長(cm)		162	195	205	235	210	246	219	194	261
	葉数(枚)		6.7	7.1	6.9	6.5	6.1	6.2	5.9	6.0	6.4
9月7日	つる長(cm)		682	831	823	765	524	521	972	784	635
	葉数(枚)		41.6	40.6	53.2	46.0	28.8	28.1	52.3	40.6	33.9
雌花開花期			7月14日	7月14日	7月16日	7月18日	7月14日	7月16日	7月16日	7月15日	7月15日
着果節位(節)			10.2	7.8	11.6	12.2	5.5	7.8	16.0	14.3	4.6
着果期			7月22日	7月22日	7月25日	7月24日	7月22日	7月23日	7月23日	7月22日	7月22日
収穫日			9月7日								
成熟日数			47日	47日	44日	45日	47日	46日	46日	47日	47日
草勢(強5~1弱)			3	4	4	3	3	3	5	3	3
うどんこ病(無0~4基)			1	1	2	1	2	1	2	2	1

6 果実特性・収量調査

9月10日 調査

項目		品種	えびす	こふき	メルヘン	虹ロマン	くりゆたか	パカ旨	北里	試交-K26	T-52
果形			扁平	扁円	扁円	扁平	腰高	扁平	腰高	扁平	腰高
果皮色			濃緑	濃緑	濃緑	黒緑	濃緑	混	黒緑	濃緑	濃緑
肉厚	赤道部(cm)		3.5	3.4	3.0	3.1	3.1	3.3	3.0	3.0	3.0
	花痕部(cm)		2.4	2.4	2.1	2.0	2.4	2.0	1.8	1.8	2.8
果肉色(濃5~1淡)			3	2	4	3	4	4	4	3	2
糖度(Brix)収穫3日後			9.3	9.7	11.0	7.3	8.3	8.0	11.3	10.0	7.0
10a当たり収量(kg)			2,344	2,770	2,308	2,637	2,109	1,811	2,042	2,557	2,664
収量比(%)			100.0	118.2	98.5	112.5	90.0	77.3	87.1	109.1	113.6
1株当たり平均個数			2.2個	2.6個	2.6個	2.7個	1.9個	1.7個	2.0個	2.4個	2.5個
平均一果重(kg)			2.4	2.4	2.0	2.2	2.5	2.4	2.3	2.4	2.4
規格別割合(%)	良果		100	94.3	100	97	100	100	100	96.8	100
	不良果		0.0	5.7	0.0	3.0	0.0	0.0	0.0	3.2	0.0

7 食味・貯蔵調査

9月13日 調査

項目		品種	えびす	こふき	メルヘン	虹ロマン	くりゆたか	パカ旨	北里	試交-K26	T-52
硬さ(硬5~1軟)			3.0	3.0	3.0	3.1	3.4	2.8	4.0	3.5	3.0
粉質程度(強5~1弱)			3.0	4.1	2.9	3.5	3.8	2.5	4.0	3.3	3.3
甘味(強5~1弱)			3.0	3.5	3.6	3.3	3.0	2.9	4.1	3.1	2.3
食味(良5~1不良)			3.0	3.5	3.1	3.5	3.3	2.8	4.0	3.0	2.6
12月14日	腐敗率(%)		0	10	45	10	25	5	10	10	30
	糖度(Brix)		13.3	18.7	15.7	15.7	14.3	14.0	15.0	17.0	15.5
1月17日	腐敗率(%)		5	35	45	50	40	60	15	15	55
	糖度(Brix)		15.6	15.6	16.8	15.8	15.1	15.7	16.6	17.7	16.5

8 防除歴

殺虫剤	6月20日	サンライトフロアブル	1,000倍	7月26日	アゲロシリン乳剤	2,000倍
	6月30日	エルサン乳剤	1,000倍	8月31日	エルサン乳剤	1,000倍
	7月13日	アデイオン乳剤	2,000倍			
殺菌剤	6月20日	ストロビ-フロアブル	3,000倍	8月31日	ストロビ-フロアブル	3,000倍
	7月13日	タコニール1000	1,000倍			
	7月26日	ホリベリン水和剤	1,000倍			

9 試験結果概要

(1) 生育経過

① 育苗期

5月18日に78穴セル成型トレーにプラグエースを使い播種をし、発芽率は全品種98%以上と良好であった。播種後14日の6月1日に定植を行い、6月30日子蔓2本仕立てとした。

② 草勢状況

定植後、活着がよく生育は全品種良好であった。特に北里は草勢が強く、収穫時期にはつる長が972cmとなった。

③ 生育・着果・収穫

雌花は7月14日からえびす・こふき・くりゆたかの開花が始まり、虹ロマンは7月18日となった。着果期は雌花開花期から8日程度で全品種着果した。

収穫は9月7日に全品種収穫し、成熟日数はメルヘンが一番短く44日、その次に虹ロマンの45日、バカ旨・北里で46日、えびす・こふき・くりゆたか等の品種は47日という結果になった。

(2) 収量調査

1株当たりの平均個数がくりゆたかとバカ旨を除いて全て2個以上で、10a当たり収量ではこふきの2,770kgが一番多収であり、その次にT-52>虹ロマン>試交-K26となった。規格別割合では各品種の製品率が高く、不良果があったこふきで5.7%・虹ロマンで3.0%・試交-K26で3.2%の未熟や変形があった。

(3) 果実特性調査

赤道部の肉厚の一番はえびすの3.5cmあったが、どの品種も大きな差はみられなかった。糖度は収穫3日後に実施した。糖度が一番あったのが北里の11.3度、次にメルヘンの11度、試交K-26の10度となった。その他の品種は10度以下であった。

食味調査

食味調査は収穫1週間後の9月13日に行った。全体をみて一番評価が高かったのは北里で全て4以上の評価となった。

(4) 貯蔵調査

① 9月7日に収穫・風乾後、10月11日から7°Cの室温に34日間貯蔵し、12月14日に1回目の腐敗調査を行い、腐敗率はメルヘンで45%、T-52の30%、くりゆたかは25%の腐敗が確認された。メルヘンはカビの発生も見られた。他の品種は10%以下となって、特にえびすにいたっては腐敗がなく、優れた結果となった。

② 1月17日に2回目の調査を行い、メルヘン以外は腐敗率が高くなっていて、その中でもバカ旨は12月の調査では5%だったが、1月の調査では60%と腐敗率が一段と高くなった。

(5) 考察

収量ではえびすの10a当たり2,344kgに対し、収量比でこふきが118.2%、T-52は113.6%、虹ロマン112.5%、試交-K26が109.1%といずれも基準品種のえびすより高くなった。1株当たりの着果個数や一果重では、こふき・虹ロマンが平均的に良かった。

9月13日の食味調査では、えびすが3(良5~1不良)であり、北里は4と非常に評価が高く、続いてこふき・虹ロマンの3.5の調査結果となった。

食味や腐敗率調査は貯蔵・出荷条件によって変化が大きいため、今後時期別調査等検討していきたい。